

第一話 宮沢賢治と本当の幸福（前半）



まえおきの話

ご紹介いただきました桑原でございます。昨夜は台風でしたね。私の家は逗子の海っぶちでして、波打ちぎわなんです。海から直接風が来まして、屋根が飛ぶんです。ですから、どうなることかと思ひヒヤヒヤしていましたら、不幸中の幸いと申しますか逆にこんなにカラリとなりまして、来ることが出来ました。

サテ、今日は何のお話をしたらよろしいかと思うんです。皆様靈的なことは初めての方もありのようで、そういう方々にも分かって頂くためには、何のお話をしたら良いかと思う次第です。袖すり合うも他生の縁と申しますから、仏教ではこれ前生からの縁と申しますから、せっかくこうやってお目にかかりましたので、何かしらお役に立てたらいいなと私は思っております。

実は私スピリチュアリズムと言いまして、(近代心霊研究に立脚した人間の生き方。神霊主義とでも訳しますか)そんなものを少し前に勉強したことがございます。ま、それを基礎にしながら、色々人生について考えたり悩んだりしたことがございます。それ

で、今日お世話役のSさんに、「Sさん、何のお話しましょうか」と言ったら「銀河鉄道の夜とか宮沢賢治の話とか、そんなものはどうですか」とおっしゃった。それで、じゃそんなことに関連しながら、霊のお話をしてみようということになりました。

「本当の幸せとは何か」ということでお話したいと思っています。これ宮沢賢治の言葉でしてね。「本当の幸いとは何だろう」、これは銀河鉄道のテーマですね。私もそれになりまして、今日は本当の幸せとは何だろうということ、考えてみたいと思います。「ああ、そんなものわかってるよ」と言われる方が大部分かもしれませんが、私なりに話をさせていただきます。宮沢賢治との関連におきまして話をさせていただきます。

りんごの皮をなめている愚

たとえば、ここにリンゴがあるとします。まっ赤な熟れたリンゴ、あれ皮だけ食べる人いませんか。中の実を食べます。皆さんも皮をむいたら捨てるでしょう。ところが何と不思議なことに、現在の私達は実を食べていないんです。何しているかというと、

外側の皮の赤いのを見て「ああ、素晴らしいなあ」とつつとり見とれたり、その皮をいっしょうけんめい磨きまして、あれやこれやの方法で、なかには化粧水までつける人もいますけど、油までつけてね。いっしょうけんめい磨いて、比べあったり競いあったりしています。そして、皮をなめてばっかりいるんです。リンゴの皮、ペロペロペロペロッ。どうして食べないかというと、現在の私達は、リンゴの皮の中に本当のおいしいエキスがあることが見えてないんですよ。

もちろん、これはたとえ話です。つまり私達は赤い外見につつとりとして、外見ばかり磨いて競い合ったり、どっちが赤いで喧嘩したり、リンゴを奪い合ったり、お腹がすくと、それをペロペロペロとなめたりしている。これでお腹が一杯になる筈はない。渴きはいつそう強くなるばかりです。そして不平と不満と空腹がつのって、戦争したり、破壊したり、殺しあったりしています。これというのも元はといえば、リンゴの外見の赤さに目がいって、中身の本当のエキスの存在まで知らない。人間のそついう愚かさにあるんです。

物質に幸福を求める愚

つまり現在の私達はね、宇宙の中の物質の面だけしか見えてないんです。外側の皮だけしか見えてない。中味。宮沢賢治によるとそれは第四次元の世界でありますよね。私達の言葉で言いますと、霊的な世界でございますけどね。それが見えない。あるってことを知らない。本当は幸せの魂と言いますか、震源地と言いますか、珠玉と申しますか、それは内部にあるんです。私達見えないから、外側の面ばかり見まして、これが幸せかしらん、幸せがほしいなあ。「幸せって何だろう」、物質だなあ、お金かしらんと思ってるんです。子供をもっている方は、偏差値教育をしていい学校へ入れることかしらん。若い人だとか、この頃は中年の人まで、フリーセックスと言いますか自由恋愛が幸せだなあと思ったりしています。国家は国家で、日本は経済大国などとそっくり返って、お金持つことが国家の幸せだとはかり思い込んでいます。ソ連だとかアメリカにすれば強大な武力、軍事力をもつことが国の繁栄だと思っっていますね。

それが平和だと思っっていますね。つまり物質だけが幸福と平和の手段だと思っっている